



The Newsletter for Quality of University Education

大学教育の質保証

一般財団法人 大学教育質保証・評価センター
Japan Association for Quality of University Education

2021-1(通巻2号)
2021年8月16日発行

【発行責任者】奥野 武俊（一般財団法人 大学教育質保証・評価センター 代表理事）

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビルB106 TEL:03-6205-8101 URL: <http://jaque.or.jp/> E-mail: daihyo@jaque.or.jp

特集：初年度の認証評価事業を振り返る

2021年3月26日、本センターが初めて実施した2020年度機関別認証評価に関し、受審7大学に対する評価結果を本センターウェブサイトに掲載しました。初年度の評価を関わった様々な関係者により振り返ります。

コロナ禍の下での 評価を終えて

認証評価委員会 近藤倫明 委員長



2020年度は、コロナ感染症への対応という経験したことのない事態の中で、本センター初年度となる認証評価実施の道のりを歩むこととなりました。受審大学、評価機関が共に、極めて高い緊張感の中で評価の作業に取り組み、無事に評価結果を出すことができました。

認証評価委員会は計3回開催されました。第1回は緊急事態宣言下のため、急遽4月30日から5月8日の期間の書面審議に変更され、評価実施チーム編成に係る議案を議決しました。第2回は、年明け2021年1月にオンライン会議で、評価報告書（案）等についての審議、第3回は、3月に書面審議で、受審7大学の評価報告書を確定しました。評価の実務を担当いただいたみなさんにあらためてこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

2020年5月に、文部科学省から認証評価機関に充てられた事務連絡「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う認証評価の運用について」を受け、受審大学からの点検評価ポートフォリオ提出期限を弾力化するとともに、実地調査はオンラインで実施することとしました。

評価業務は、受審大学ごとに編成された評価実施チーム（主査、専門委員）が担当し、各チームには主副2人の事務局スタッフが加わり、評価者研修会のあと、書面評価を開始しました。分析作業は、本センターが設置したクラウド上で、基準ごとの評価作業シートを使って進められ、実地調査までに評価実施チーム会議が複数回

開催され、評価・分析の基準・判断などが評価者間で共有されました。さらに、チーム間の調整は必要に応じて各チームの主査等が出席する大学評価部会を開催し行われました。コロナ禍でオンラインになったことに対応し、実地調査は1日のスケジュールに変更され、書面評価では確認できなかった点についての確認に加え、ステークホルダーが参加する評価審査会を受審大学の協力のもとに実施しました。

年度当初より、評価業務の実績がない中で、課題を迅速に判断・解決するために企画運営会議を代表理事、認証評価委員会委員長、評価システム委員会委員長、事務局局長で構成しました。会議は年度内に計20回開催し、7つの評価実施チーム会議や実地調査にもオブザーバー参加することで、評価実施面でのサポートを行いました。

受審大学と評価実施チームとの窓口は事務局スタッフが担当しました。点検評価ポートフォリオの記載説明から実地調査のスケジュール、受審大学からの質問、評価実施チームからの確認事項の問合せなどについては、企画運営会議のメンバーと絶えず相談しながらの対応でした。その中で得た課題や改善項目等は、備忘録に残され、蓄積されています。

評価を通じて得た課題や改善項目等は、評価のあり方を絶えず改善する目的で、本センター独自の内部質保証のためにフィードバック・ノートとして蓄積しています。評価作業中に得られたそれぞれの会議での意見、主査、評価者からのコメント、評価作業シート上のフィードバック・ノート（メモ）、書面評価等で大学に確認した事項、加えて評価後の評価者、受審大学へのアンケートから、およそ700項目を抽出・分類したデータベースです。このデータは評価システム委員会で分析され、2021年度以降の評価に活かされることとなります。

2020年度大学機関別認証評価を受審して(1) 初年度の認証評価を受審

沖縄県立芸術大学 波多野 泉 学長



沖縄県立芸術大学は、アジア地域における芸術文化とのかかわりを教育・研究の特色とし、沖縄文化が造りあげてきた個性の美と人類普遍の美を追究することを建学の基本的な精神として、昭和61(1986)年に開学しました。そして、本年4月1日より公立大学法人として新たなスタートを切ったところです。

第3巡目受審までの経緯

本学設置の基本構想において、芸術専門教育では実技と合わせて理論教育の重要性が謳われ、また当初より教養教育を重視し、大綱化以降も全学共通教育を主務とする教員数を維持しています。その後、幾度かのカリキュラム改正を経て、2011年には一般教育等を見直す過程で専門各分野の教員も参画する全学教育を構想し、それを機に専門教育と教養教育を有機的に関連させることを企図しました。この取り組みはアンケート結果などから一定の評価を得ていると判断しています。一方で近年の自己点検において、大学全体の教育成果の検証に資するIR機能や学習成果の可視化が不十分であることの課題認識が学内で高まる中、第3巡目の認証評価受審機関の選択時期が近づく2018年にはじめには、公大協が設立する認証評価機関での受審の方針を固め、2019年前期に(一財)大学教育質保証・評価センター受審の予算措置を講じることとなりました。とくに基準2(水準評価)において、本学での取組が遅れている内部質保証に係るモニタリング活動に焦点を当てた評価指針が明示されたことは、この選択決定に大きく作用しました。それは、本学の問題意識に沿った指摘や助言による「妥当性の高い」「支援型」の評価への期待からです。また、固有の地域文化を背景に地域社会に存立する公立大学特有の設置者との関係についても、当然のこととして理解があることが選択の判断をより容易にしました。もちろん基準

3(特色評価)は、本学の特色ある教育研究活動を説明できる場であることは言うまでもありません。

外の視点、外への説明、内の相互理解

近年、本学は全組織、全教員の取組みについて、毎年簡便なPDCA報告書により情報を学内共有し相互に確認できる状況にあって、大学諸活動に一定のオーナーシップが醸成されていることを確認できますが、2020年度受審における点検評価ポートフォリオ作成と、その後の数次にわたる書面確認への回答において全て組織的に共有する中で、受審プロセスそのものが、改めて多くの教職員に学外からの視点の気付きと問題意識を喚起する学習の場となりました。

最も特徴的な参加型の評価審査会は、コロナ禍対応によるオンラインシステムの活用で、奇しくも多数の学外ステークホルダーの参加が容易となり、関係者への説明責任を果たすとともに意見聴取の機会にもなり、今後の有効な手段であることも実感しました。さらに、実地調査後の本学外部有識者委員会において、同ポートフォリオや審査会プレゼンテーション資料を活用したところ、その簡潔さ、伝わり易さにおいて高く評価された事例をとってみても、これらが優れたツールであることがわかります。

今後は、まずは指摘事項の改善に邁進すべく、中でも大学の諸活動の基本となる「IR機能を含む内部質保証に係る組織体制の一層の充実」を推進するためにも、本学の文化に根差した高邁な理念を組織の拠り所にして、教職員との対話を通じた相互理解に努めたいと思います。

2020年度大学機関別認証評価を受審して(2) 大学の発展に資する認証評価

岐阜薬科大学 原 英彰 学長



受審への対応と今後の展望

センターでの認証評価の初年度の受審ということもあり、些か不安を感じておりましたが、2019年10月に開

表1 2020年度認証評価受審大学概要と評価結果(大学概要は(一社)公立大学協会発行「公立大学2020」より抜粋)

大学名	設置者	所在地	開学年	学部研究科	学生定員	評価結果
沖縄県立芸術大学	沖縄県	沖縄県	1986年	美術工芸学部、音楽学部	420名	大学評価基準を満たしている
岐阜薬科大学	岐阜市	岐阜県	1949年	薬学部	725名	大学評価基準を満たしている
公立鳥取環境大学	公立大学法人公立鳥取環境大学	鳥取県	2001年	環境学部、経営学部、環境経営研究科	1,142名	大学評価基準を満たしている
敦賀市立看護大学	公立大学法人敦賀市立看護大学	福井県	2014年	看護学部	216名	大学評価基準を満たしている
長崎県立大学	長崎県公立大学法人	長崎県	2008年	経営学部、地域創造学部、国際社会学部、情報システム学部、看護栄養学部、地域創生研究科、人間健康科学研究科	2,843名	大学評価基準を満たしている
奈良県立医科大学	公立大学法人奈良県立医科大学	奈良県	1952年	医学部	1,217名	大学評価基準を満たしている
名桜大学	公立大学法人名桜大学	沖縄県	1994年	人間健康学部、国際学群	1,900名	大学評価基準を満たしている

催された実務説明会と2020年1月の受審大学事前説明会において詳細なご説明がありましたので、スムーズに受審準備に取り掛かることができました。特に、事前説明会での代表理事 奥野先生からの本評価の理念の説明、中田事務局長をはじめとする事務局の皆様からの本評価の肝である「点検評価ポートフォリオ」の作成の際の留意点などについての丁寧な説明、受審大学間での意見・情報交換等は評価資料の作成において大変助けになりました。

私共が作成したポートフォリオについても緻密にご確認頂き、不明瞭な表現や矛盾点等についてご的確に指摘して頂きましたことには感謝しております。また、コロナ禍での実地調査ではありましたが、オンライン会議システム等を利用して評価担当の先生方と闊達な意見交換をさせて頂き、大学IR等の本学が今後更に発展するための課題や問題点等を発見することができました。今後は、本評価時に見出された課題や問題点を全教職員で共有するとともに中長期的な目標を掲げ、全教職員が丸となって目標達成に向けて努力する所存であります。

センターの評価の特長

今回の認証評価を受審して強く感じたことは、センターでの認証評価が大学独自の取り組みやアピールポイントを最大限に尊重しているという点です。点検評価ポートフォリオの前半部分では、大学評価基準を満たしているか否かを判定する法令適合性の保証（基準1）がありますが、最低限触れるべき学則・規則等をポートフォリオ中に明示してそれ以外の内容については大学の取り組み等を自由に記載することができました。また、後半部分では本学が最も推進しているグリーンファーマシー教育、地域薬剤師教育や災害教育等の取り組みを紹介しましたが、書面審査や実地調査等の評価時にはこれら本学独自の取り組みに着目して頂き、建設的かつ有益なご意見を多数頂戴することができました。

さらに、これらの本学の取り組みに対して大変高い評価を頂きましたことは、本学の教職員のモチベーションの維持・向上に繋がっており、大変感謝しております。センターでは今後も多くの大学の認証評価をご担当されると思いますが、他大学と比較して一律の内容やレベルを求めるのではなく、各大学の独自性や主体性を最大限に尊重される今現在の姿勢・方針を貫いて頂き、多くの大学の更なる発展をサポートして頂けることを切にお願い申し上げます。

新たな認証評価システムの初年度を振り返り 受審大学とともに成長する評価へ

評価システム委員会 佐々木 民夫 委員長

本センターにとって初年度の評価は、評価委員をはじめとする多くの方の協力、受審大学のご理解を得て、無事に認証評価機関としての責任を果たすことができました。

本センターでは、評価委員や受審大学からいただいた意見や評価の過程で記録された細かなメモを「フィードバック・ノート」と呼ぶ仕組みの中に記録・整理しており、これを生かすことがこれからの課題になります。

初年度は、新型コロナウイルスによる感染拡大の影響を受けてオンラインによる実地調査を余儀なくされたので、評価委員からは戸惑いの声もありましたが、認証評価として必要な調査はおおむね支障なく行うことができたと考えています。オンラインの活用により、綿密な打ち合わせが可能となりました。この経験は今後の評価実施に生かしたいと考えております。

基準2に教育研究の水準の向上の取組み、基準3には大学の特色を進展させる取組みに関する評価を設定したために、点検評価ポートフォリオの作成が難しいとの声もありましたが、実地調査においては、大学からは自己点検に基づく問題意識が率直に示され、それに対し評価委員から意見が述べられることで、向上・進展に向けた貴重な場となったと考えています。

本センターは、認証評価の実施を通じて、大学の教育研究の質保証に対する取組みが深められることを願っております。それを実現するためには、認証評価としての信頼性・実効性を保ちつつ、受審大学と評価センターがともに、この評価を大学の支援に資するものとして育てていく必要があります。様々な機会を通じ、忌憚のない意見交換を行ってまいります。

表2 2020年度機関別認証評価におけるプロセス

5月末	受審大学による点検評価ポートフォリオの提出 ※新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、大学の申し出とその事情に鑑み提出期限を延長
6～9月	書面評価（点検評価ポートフォリオの分析、書面による確認事項の通知）
10～11月	実地調査（大学の責任者との面談、ステークホルダーを交えた評価審査会等） ※新型コロナウイルスの影響でスケジュールを1日に短縮のうえ、オンラインで実施
1月	受審大学に対し評価結果（案）を通知
2月	受審大学による意見申立期間
3月	認証評価委員会において評価報告書を確定し公表

大学派遣の研修生からの声

本センターは会員大学等から職員を派遣を受け、2020年度には2名の職員が1年間の研修期間を終えました。本センターの認証評価初年度における評価事務において、試行錯誤を重ねたことで得られた学びについて、振り返っていただきました。

常に目的意識を持って業務に臨む

福山市立大学 事務局 経営企画課 島田 直浩

2020年4月から1年間、専門職員として本センターの初年度の大学機関別認証評価の実務に携わらせていただきました。

最初、東京行きの新幹線に乗った時を思い起こすと、認証評価や自己点検・評価の業務経験がない中で十分に職務を果たせるか不安な気持ちでいっぱいでした。実際の研修は、コロナ禍による世界的な混乱の下での実施となりましたが、周囲からの支えもあり職務を全うできました。

手探りで業務を進めることも多かった一方、それだけ得られたものがあつたと思います。

例えば、高等教育制度等について知識や理解を深められたことはもちろん、常に目的意識を持って業務に臨むことで、どう行動すべきか、どのような業務が必要かを理解し、効率的に企画立案できるようになりました。また、オンラインで業務を行うことも多くあり、ニューノーマルに対応した業務のあり方も学ぶことができたと思います。

今後、この研修で得たものは、大学業務のみならず、生涯、大いに役立てていきます。

究極のSDというべき貴重な経験

神戸市外国語大学 経営企画グループ 企画広報班 中根 由美子

評価センターの専門職員として1年間お仕事をさせていただきました。

この2020年度は誰も予測しえなかった本当に特別な年でした。新たな認証評価機関の評価初年度、新型コロナウイルス感染拡大、テレワーク体制での業務、オンラインによる実地調査…。すべてが前例のない中で、まさに「走りながら考える」1年でしたが、理事の方々や評価委員の先生方に支えられ、なんとか無事に終えることができました。特に個性豊かな出向同期の皆様とは、

共にこれまで大学職員として培った知識や経験をフル稼働させ、限られた時間で議論し、答えを出していくという体験をさせていただきました。究極のSDというべき貴重な経験です。

現在、私は所属大学で、法人評価や来るべき認証評価受審の準備をする業務に携わっています。昨年度の経験を踏まえて、大学の質向上に資する自己点検・評価や認証評価とはどうあるべきか試行錯誤する日々を送っています。会員校の皆様にも、ぜひ評価センターへの出向を通じて認証評価への知見を深め、大学に貢献するとともに職員としての資質向上を図っていただきたいと思います。

セミナー・研究会等の開催報告

会員校向けの企画についてご報告いたします。これらについては、会員校専用ウェブサイトにおいて、資料や当日の動画を提供させていただいております。

■ 2020年度質保証セミナー（オンライン開催）

日時：2021年3月22日（月）13:30～15:30

参加者：25大学 89名

講演：認証評価を活かした内部質保証の仕組み作りと人材育成

—目的・プロセス・手段の理解と改善に向けた情報の共有—

講師 山口県立大学 岩野雅子 国際文化科学研究科長

認証評価を活かして内部質保証の仕組みを学内に作り上げていく方策や認証評価の経験を学内の人材育成にどう役立てていくかなどについてお話しがありました。



■ 第1回質保証研究会（オンライン開催）

日時：2021年6月21日（月）13:00～15:00

参加者：41大学 219名

情報提供：「認証評価を活用した大学改革を考える」

情報提供者：大学教育質保証・評価センター 中田晃事務局長

教育研究の質の向上のために認証評価を活用する方策について、具体的な事例を交えて話題提供しました。



【編集から】

評価の概要、委員名簿については、ウェブサイトの「2020年度に実施した大学機関別認証評価の概要」をご覧ください。評価の実務を担当いただいた皆様に、改めてこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

本センターでは、センターの目的・事業等に賛同する大学等を会員とする会員制度を設けています。会員校向けには、各種研修の実施及び会員校専用ウェブサイトによる情報提供等を

行っているほか、今後は会員同士の連携の取り組み等を予定しております。

また、会員校等を対象に、研修生の受け入れを行っています。研修生となり、認証評価事業をはじめとする、本センターが行う事業等を担うことを通じて、大学の質保証に関する知識、経験を獲得することができると考えています。各大学における職員育成の選択肢の一つとして、ぜひ活用をご検討ください。

TEL：03-6205-8101 E-mail：daihyo@jaque.or.jp